



学校通信

夕陽丘 第24号



## 【校長挨拶】

## いつでも夢を いつでも努力を



校長 西出 博行

第63期卒業生の皆さん、卒業ほんとうにおめでとうございます。月日の経つのは早いもので、3年前の4月、名門の誉れ高き夕陽丘高校の校長として初めて入学式に臨みました。百年の伝統がかもし出す厳かな雰囲気の中、新入生の皆さんの顔が輝いてまぶしく感じたことを今でもはっきりと覚えています。あの日から早や3年の歳月が経とうとしています。青春真っ只中の時代をこの学び舎で精一杯過ごし、人生でかけがえのない多くの宝物を手に入れたことと思います。「一生付き合える親友ができた」「素晴らしい先生に出会えた」「将来進むべき道がはっきりと見えてきた」「体力や忍耐力が身に付いた」「しっかりとした思考力や判断力を身につけた」等々、人それぞれでしょうが、それを今後さらに充実・発展させてほしいと願っています。

さて、社会に目を転じますと、景気の回復が遅々として進まず、就職戦線は極めて厳しい状況を余儀なくされています。失業率も依然として高い数値を示しています。このような不安定で激動の社会を力強く生き抜くためには、自分自身を鍛え総合的な力をしっかりと身につけることが強く求められてきます。語学力やICT能力をはじめ、一生の財産となる資格を取ることは勿論のこと、粘り強い思考力や的確な判断力、迅速な行動力そして、最近弱くなっていると言われるコミュニケーション能力を磨くことがきわめて重要です。今、皆さんは無事3カ年の課程を終え、数々の青春の思い出を胸に抱いてこの学び舎を飛び立つわけですが、いつも順風満帆とは行かず、行く手には大きな壁が立ちはだかることもあるでしょう。今後の長い人生行路を歩む上で心に留めておいてほしい言葉をはなむけとして送りたいと思います。

**発行** 〒543-0035 大阪市天王寺区北山町 10-10 大阪府立夕陽丘高等学校

**TEL** 06-6771-0665 **FAX** 06-6771-6267 **E-mail:** z-yuhigaoka@sbox.osaka-c.ed.jp

**ホームページ** <http://www.osaka-c.ed.jp/yuhigaoka> (題字 森 敏行先生)

それは「いつでも夢を、そして、いつでも努力を」ということです。皆さんは、これからの人生において無限の可能性を持っています。常に大いなる夢と目標を持ち、それに向かって力強く勇敢にチャレンジしてください。「少年よ、大志を抱け」これはクラーク博士の有名な言葉です。1876年、明治政府の熱烈な要請を受けて、当時マサチューセッツ大学の学長であったクラーク博士は、新しく発足する札幌農学校の教頭に就任しました。1期生16名と過ごした期間はわずか8ヶ月でしたが、その教えは学生たちに強烈な印象を与え、自由闊達な独特の校風を築きました。任務を終えアメリカに帰る時、見送りに来た学生たちに向かって「Boys, be ambitious (少年よ、大志を抱け)」と叫ぶなり、馬に鞭を入れ走り去ったと言われています。クラーク博士の影響を受けた内村鑑三は、「少年」とは決して普通に言われる少年に限らず、「希望に邁進している全ての人である」と言っています。

エベレスト単独・無酸素登頂に挑戦を続けている登山家の栗城 史多さんは、「夢は、叶う叶わないは関係ない。夢を持つことに意味がある。夢を持つだけで自分が前向きに生きられる。もちろん失敗もあるだろうが、失敗は終わりではない。夢を諦め、歩みをなくした瞬間に全てが終わるのだ」と述べています。どうか皆さん、大いなる夢を持ち、その実現に向けて限りない努力を続けてください。その努力の過程で、自分が鍛えられ大きく成長するはずで、努力に勝るものはありません。努力に敵なしを意味する「努力無敵」の四字熟語は私が中学校3年の時に考えたものですが、今でもその信念は全く変わっていません。

それでは、卒業生の皆さん、いつでも大いなる夢を抱き、山あり谷ありの人生を力強く突き進んでください。輝かしい未来の旅路に幸多かれと心より祈っています。

## 【第三学年】より

### 63期生 「卒業にあたって」

3年主任 諸正 邦彦

63期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

私は折り触れて、「何のために学習するのか、なぜ上級学校を目指すのか、人間としてどうあるべきか。」の私見をみなさんの訴えてきました。

今回は、いよいよ最後のメッセージを書いて三年間の締めくくりとします。

荘子の言葉に「万物斉同」というのがあります。この意味は、この世界本来のありのままの姿は、何らの差別や対立のない、すべてが斉しい世界という意味です。この「斉しい」ということに着目すれば、われわれの思いや是非善悪は相対的なものであって、絶対的なものはないということです。われわれの日々の行為・行動において「うらやむ・ねたむ・誹謗・中傷」といったことで自己を含め他者を傷つけたことはないでしょうか。もしあるとするならば、自己の外側の相対的現象に自己が支配されていることになり、その意味で自由ではないのです。己を含め全てのものは自然を構成する一つの要素であり、その存在は自然の世界を作り出す紐帯的な存在なのです。そのような意味でわれわれを含め全て存在するものは「万物斉同」なのです。西田幾多郎も「純粹経験」の重要性をうたっています。それは「主客未分」の状態であり、そこには「未分」であるがゆえに対立のない状態をいっています。

ところで、われわれは人間社会を脱出して一人きりで生きていくことは出来ません。われわれはあくまでも人間社会を構成する紐帯的存在なのです。前述にも指摘していますが、「紐帯的存在」である以上、支え支えられている存在であるのであり、そこにはおのずから約束事が生じてきます。この約束事の根底が「斉同」であり、「斉同」の具体的な実践の土台を形成するのが「愛」です。「愛」は「斉同」の具体化なのです。すなわち「対人以愛和」といえるでしょう。

「一切衆生悉有仏性」という言葉があります。これはすべてのものには仏性があるということを表しています。仏陀の思想、行動のなかで重要な一つに「慈悲」の実践があります。「慈悲」の根本は「愛」です。他の世界宗教においても「愛」は重視されています。これらの「愛」の本質は無差別、無償、無私の「愛」です。このような「愛」を自らのものにすることが「万物斉同」のなんたるかを知りことになります。そのことが世界における自己の在り方を決定するのです。「万物斉同」の実践が「愛」を育むのです。

「一花一草一如來」。ありとあらゆるものに「愛」を感じ、感性豊かな「人」になって下さい。感じた「愛」をあらゆる場面で実践して下さい。無差別、無償、無私の「愛」の実践を含め、身近な人々に対しての「愛」すなわち「父母への愛」「親子の愛」「兄弟愛」「長幼への愛」「男女の愛」「学問への愛」「仕事への愛」...様々な場面であなたの「愛」を実践し「愛」を語ることが出来る「人」になって下さい。

63期生のみなさんのこれからの人生、「幸」多かれと祈念しています。

最後にいつものように「日常六信」を贈ります。これも「愛」がその基本です。

- 「はい」という素直な心
- 「私がします」という奉仕の心
- 「お陰さま」という謙虚な心
- 「有難う」という感謝の心
- 「すみません」という反省の心
- 「他者を受け入れ認める」慈愛の心

## 【第二学年】より

# 日々の生活を大事にしよう！

第2学年主任 横野 理啓

夕陽丘に入学して、早2年が過ぎようとしています。この2年間で、みなさんは大きく成長したわけではありませんか。

身体が少し大きくなったでしょう。さまざまな経験も深まりました。悩むこともあったでしょう。苦しい思いをしたかもしれません。それらをのりこえ、忍耐力も判断力もつきました。もちろん、学力もずいぶん前進しましたね。

外から見ていてもわかります。入学したての1年生のころとは、積極性がちがいます。体育祭、文化祭、合唱コンクール、遠足、部活動、自治会、授業...。ひとつひとつの取り組みへのかかわり方が変わったのではないですか。自分からすすんで、自信をもって取り組んでいるように見えます。

いま、その積極性がほんとうに活かされるべき、最後の学年を迎えようとしています。あらためて言いたい。「日々の生活を大事にしよう！」と。すべてが自分の責任です。しかし、自分だけで生きているわけではありません。ひとりひとりが努力し、みんな協力し、ひとりではやれないこともみんな経験していく。それが「学校」です。

夕陽丘での3年間で、ほんとうに充実したものにすため、最後の学年に向けて気分一新、みんな「さすがに3年生だ」といえる日々を送れるようにしようではありませんか。

## 【第一学年】より

### 発心・決心・持続心

第1学年主任 草間 義彦

#### 65期生の諸君へ

「風かんじる65期」をスローガンにして、65期がスタートして1年終わりました。先日のHRでこの1年の総括アンケートをしてもらいましたが自己評価はどうできたか？学年スローガンの意味「豊かな情操と気品を備え、吹く風を感じて行動する」ことできたでしょうか？1年次の学年目標「高校での基礎力をつける（生活習慣と学習環境・学習習慣の確立）」は、どの程度達成できたでしょうか？なんとなく1年が終わっていませんか。学年が変わる節目にもう一度、入学当初掲げた目標を思い出してみてください。

2年生から、普通科は進路へ向けての大きな枝分かれ理系と文系に分かれます。2年後の進路実現へ向けて、より具体的な目標を早く設定できるかが成功の鍵となります。これは音楽科も同じです。

さあやるぞ、と心を奮い立たせるのが「発心」。やると心に決めたことを実行するのが「決心」。そして、その決心をやり続けるのが「持続心」。この3つ心を力にして、進路へ向けての目標を設定し、取り組みを具体化していきましょう。大切なのは継続すること、思い立ってスタートしても長続きしなければ、決して身につけません。継続は力なりです。

2年生では、学習面・学校生活（行事等）において充実した1年にしましょう。

## 【進路指導部】より

#### 1年生 「進路体験セミナー」

1年では勤労観・職業観を育成することを目的に「進路体験セミナー」を実施しています。実際にその道のプロである方々からお話を伺うために、それぞれ希望する16の分野の専門学校を訪問しました。プロとして活躍されている講師の先生方に、その職業の詳しい説明をしていただくとともに、ご自分の高校・大学時代のこと、なぜその道に入ったか、入ってからの苦労や努力されていること、やりがいを感じていることなどを話していただきました。

やはり、一線で活躍されているプロの方の言葉は説得力や魅力があり、どの分野でも生徒たちは興味を持って熱心に耳を傾けていました。今まで表面しか知らなかった仕事について詳しい話を聞くことができ、「好きというだけでは、その職業に就けないことが分かった」、「一見華やかで楽しそうに見えた仕事も、実は大変なことも多く、裏では常に勉強と努力を続けていかなければならないということが分かった」、「自分が好きなこと、やりがいのあることをやっている先生の笑顔が素敵でした。その笑顔のためには努力が必要なことも分かりました。自分も夢に向かって頑張っていきたいと思います」、「その職業を極めていくためには、意外な力や知識が必要なことが分かった。今やっている自分たちの勉強もしっかりやっていきたい」などの感想が寄せられました。



## 1年生 「進路講演会」

前週の体験セミナーに続き11月18日木曜日、ヴィオーラホールで進路講演会を実施しました。講師は昨年も来ていただいた佛教大学教育学部教授の原清治先生で、高校1年生がこの時期に心得ておくべき様々なことを多彩な表現でわかりやすく語って頂きました。

「夢はありますか」という問いかけに何人かが挙手で応え、「\*\*になりたいです。」という明快な発言が得られ、「ここで手のあがる集団は珍しいのですよ」と持ち上げられて会場の雰囲気はよくなったような気がします。

「人間力」と言うを使い古された言葉のようですが、例えば推薦入試の集団面接では発言者以外の受験生の所作を観察している、と言った具体的な例を挙げつつ人と繋がるための総合的な能力の大切さを説き、生徒に強い印象を与えたと思われます。

多くの生徒は時間いっぱい集中して話を聴き、ホームルームに帰ってから「これからは寝ないでちゃんと授業を受けたいです」と言った殊勝な感想もあり全体としては有意義な講演会でした。

## 2年生 「卒業生を囲む会」

卒業生からナマで伺う話は、ひと味異なります。

64期2年生に、文、外国語など10の分野に計26名の卒業生(殆どの方が2歳年上の62期生です)をお招きして、今の大学生生活や、今どんな勉強をしているか、高校のときにどんな準備をしたか、進路選択をどうして決めたかなど様々なお話をして頂きました。各分野には、希望によって8名から50名弱までの生徒が別れて聴かせてもらう分科会形式です。

できるだけ親近感を持ってもらおうと、生徒が司会をする形式ですすめました。どの分科会でも司会の生徒は堂々としていたのですが、卒業生の方が緊張して最初は本音の話を引き出せませんでした。しかし、時間がたつにつれて卒業生の本音の話がでて、生徒は様々な質問をして、真剣に聴き入っておりました。質問のなかで特に静まりかえってそのお話をお聞きしたのは、大学生の就職状況のお話や奨学金、アルバイト、大学での留年に関することでした。また最後に在校生に言って頂いた「高校生活を思い切り楽しんでおくこと。」のアドバイスに深く頷いておりました。

普段、進学後の生活などを聞けるのは、大学のオープンキャンパスに行ってお大学の人からです。それもいいのですが、視点は大学を卒業した人の視点ですし、多少の宣伝も混ざっていることを考慮しないといけないかも知れません。しかし、実際に大学に行っている2歳年上の先輩の話は、それらとはひと味違う皮膚感覚のあるお話でした。

講義の日を一日お休みして参加してくださいました卒業生に感謝申し上げます。



## 【生徒指導部】より

遅刻について

(4月～2月22日まで)

	平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度		
	SHR 遅刻	授業 遅刻	合計	SHR 遅刻	授業 遅刻	合計	SHR 遅刻	授業 遅刻	合計	SHR 遅刻	授業 遅刻	合計
1年生	595	297	892	318	218	536	425	407	832	303	283	586
クラス数	7クラス			8クラス			8クラス			8クラス		
2年生	866	728	1594	770	941	1711	400	437	837	500	640	1140
クラス数	7クラス			7クラス			8クラス			8クラス		
3年生	592	1528	2120	884	1222	2106	1275	841	2116	608	334	942
クラス数	7クラス			7クラス			7クラス			8クラス		
合計	2053	2553	4606	1972	2381	4353	1666	2119	3785	1403	1257	2660
クラス数	21クラス			22クラス			23クラス			24クラス		

早朝登校指導生徒数 (4月～2月22日まで)

	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
1年生	11	名	12	名	18	名	13	名
2年生	70	名	30	名	8	名	26	名
3年生	62	名	75	名	23	名	4	名
合計	143	名	117	名	49	名	43	名

今年度遅刻数年間3500を切ることを目標にしてきましたが、数字の上では目標を達成することができませんでした。理由としては表を見ても分かる通り、平成20年度入学の63期生の中にきちんとした生活習慣を守って3年間学校生活を送った人が多く、全体数が減少しました。特に3年生になって、受験勉強等で不規則な生活になりがちで例年遅刻数がかかり増加する中、規則正しい学校生活を送った人が多く、きっと入試成績に反映されたと思います。また、早朝登校指導を受けた人の数もかなり減少しました。これは「遅刻常習者」と呼ばれる人が年間を通して4名しかいなかったことからわかります。

3年生と比べ気になるのは2年生で、全体の数も多く、特に早朝登校指導を受けた人が他の学年に比べかなり多く、最終学年に進級するに当たりもう一度自分の生活を見直すが必要だと思います。

遅刻の数は浪人する確率に比例するのはまぎれもない事実です。

来年度の目標も今年度を下回る遅刻数です。学校に限らず時間に縛りがないところなどありません。当たり前のことを当たり前にやりましょう。

携帯電話について

	平成21年度		平成22年度	
1年生	8	件	28	件
2年生	16	件	10	件
3年生	5	件	12	件
合計	29	件	50	件

昨年度より校内でのルールが変更され、マナー指導が基本となり、昨年度は29名の方が指導を受けました。

今年度は1年生が突出して多く、9月には非常事態宣言も学年から出されました。

いつも言うように今あるルールが守られなければルールは厳しくなっていくのが社会の常識です。自分のことしか考えない身勝手な行動が、学校という場所をどんどん窮屈な場所にしていくことを考えてください。携帯電話はとても便利で今やみんなの生活には必需品です。だからこそ持つ人のマナーが問われます。1年生はしっかり意識してください。

その他

今年度の特徴として、校内での器物破損が多数発生しました。これは校外からの侵入者による行為とは考えにくく、明らかに生徒の中に犯人がいます。公共の物を壊すことでどれほどの人に迷惑をかけているか考えた事がありますか？そのような行為をしている人をかわいそうに思えてなりませんし、心が寂しくなります。また定期考査の際、テスト終了の合図の後の解答用紙への不正加筆行為が多数1年生で発生しました。全ての試験を厳正な態度で受験する事は、もっとも遵守しなければならないことです。携帯電話のことも書いた通り、学校は生徒にとっても、教師にとっても安心して居ることができ、窮屈でない、居心地の良い場所であればなりません。他人に迷惑をかけていることに鈍感にならないように注意して、みんなが心地よい学校となるように自覚し、協力して行きましょう。

# 【保健部】より

学校生活 明るく、楽しく、元気よく！！

## 1. 身体計測結果

身長	本校男子	大阪男子	全国男子	本校女子	大阪女子	全国女子
1年	167.7	168.2	168.2	157.5	157.5	157.1
2年	170.3	169.9	169.9	158.0	157.3	157.7
3年	170.5	170.7	170.7	158.3	157.6	158.0

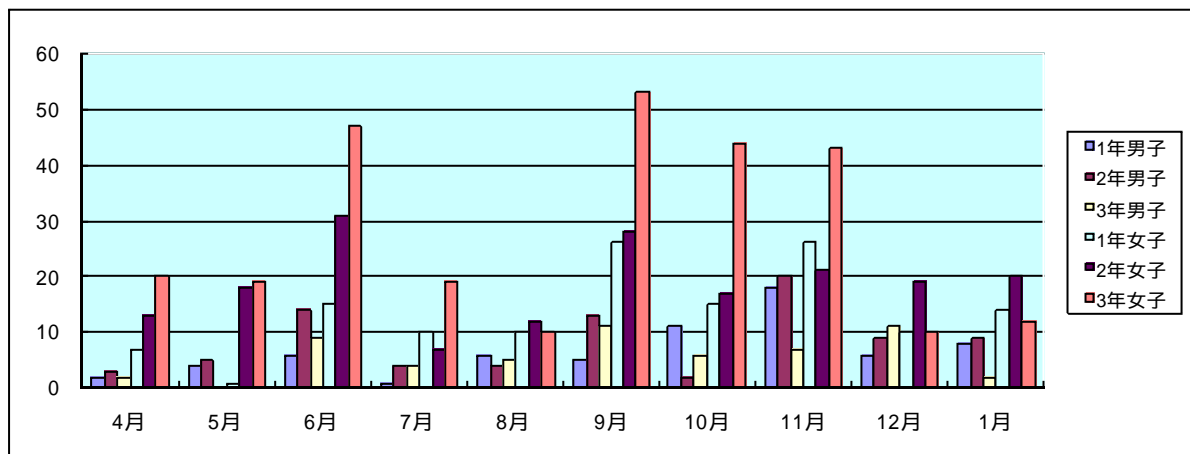
体重	本校男子	大阪男子	全国男子	本校女子	大阪女子	全国女子
1年	57.3	59.7	59.5	50.5	51.7	51.6
2年	58.9	61.4	61.5	51.2	52.5	52.7
3年	60.4	62.9	63.1	51.4	52.5	52.9

座高	本校男子	大阪男子	全国男子	本校女子	大阪女子	全国女子
1年	89.9	90.1	90.3	85.6	85.5	85.3
2年	91.1	91.3	91.3	85.5	85.6	85.6
3年	91.5	91.7	91.9	85.8	85.8	85.8

本校生の体格を大阪府平均や全国平均と比較して見ると、身長と座高については、男女ともほぼ同じ位の数値であり、標準的な身長と座高であると言える。しかし体重については男女ともそして全学年において低い数値を示している。このことは本校生は、やややせ形のスラリとした一見ひ弱そうな体型の生徒が比較的多いと言える。これは、ここ数年にわたってみられる体格の傾向であり、本校生の特徴の一つと言える。体育やクラブ活動などあらゆる学校活動において、筋力アップなどの体力強化を図り、体格・体力の向上を目指して欲しい。

## 2. 保健室利用状況 < 内科的なもの >

\* 月別来室状況(総数 :804件)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	計
1年男子	2	4	6	1	6	5	11	18	6	8	67
2年男子	3	5	14	4	4	13	2	20	9	9	83
3年男子	2	0	9	4	5	11	6	7	11	2	57
1年女子	7	1	15	10	10	26	15	26	10	14	134
2年女子	13	18	31	7	12	28	17	21	19	20	186
3年女子	20	19	47	19	10	53	44	43	10	12	277

保健室利用状況は、例年のとおり男子よりも女子の方が多く、また、学年があがるにつれて利用数も増える傾向にある。これは、女子の方が内臓的な不調を訴えることが多く精神的にも不安定な状態になる生徒が多い現れである。また、学年があがるにつれて養護教諭との親しみも深まり、心の相談などの相談件数が増えるなどの結果である。保健部としては、生徒たちが明るく楽しく充実した学校生活を送れるよう、今後とも悩み相談室「あおぞら」などの活動を通して生徒たちの心の成長を応援していきたい。

## 【音楽科】より

## 主な音楽科行事報告

### ・1月14日(金) 特別公開講座「ピアノ演奏とレッスン」

講師にユーリ・スレサレフ氏(モスクワ音楽院教授・くらしき作陽大学特任教授)をお迎えし、ロシアのピアノリズム溢れる演奏を披露いただいた後、音楽科2年生2名がレッスンを受講しました。

### ・1月17日(月) スタインウェイ・ピアノ開きコンサート



大阪府の「専門学科特別支援事業」によってスタインウェイ・コンサートピアノ導入され、日本を代表するピアニスト小山実稚恵さんをお招きしてピアノ開きコンサートを開催しました。

生徒たちは、リストやショパンの情感に満ちた表現力に魅了されていました。演奏後小山さんは「スタインウェイは無限の可能性を秘めた楽器。皆さんも楽器とともに羽ばたいてほしい」と生徒たちにエールを送っていただきました。

### ・1月28日(金) 特別公開講座「文楽鑑賞教室」

### ・2月5日(土) 第146回ピッコロコンチェルティスタ

### ・2月10日(木) ハワイ・プナホウ高校とのテレビ会議「海を越えたコンサート」

### ・2月12日(土) 音楽科3年生演奏会

それぞれ個性豊かな表現で、3年間の成長が感じられる演奏を披露してくれました。皆さんの今後の活躍を期待しています。

## 【当面の予定】

3月1日(火) 第63回卒業式      3月15日(火) 平成22年度終業式

入試関連      登校禁止      3月15日(火)午後1時~16日(水) 全日

校舎内立ち入り禁止      17日(木)~24日(木) 10時まで

3月18日(金) 教科書販売

4月1日(金) クラス発表      4月8日(金) 始業式 入学式

### 【編集後記】

「運命は笑い待ちをり卒業す」      高浜虚子

今週はいろんな暗いニュースがありました。また、社会情勢も経済情勢も先が読みにくい状態です。がしかし、若さは何ものにも代え難いエネルギーを持っています。自身で運命を切り開き、63期の皆さんが、笑いの絶えない日々を送られることを祈っています。

